

ニシテ累帯狀ニ配列ス、M面ニ於ケル消光角負十六—二十度、ラブラドライトニ相當ス。

輝石類——一・五「ミリ」ニシテ普通輝石ハ淡綠柱晶ナリ、雙晶多シ、紫蘇輝石ハ少量ニシテ柱面兩錐面ヲ有ス、前者ニ比シ小晶、常ニ輪廓明瞭、磁鐵礦ヲ包裹シ、輝石ト平行共生ヲナス。

磁鐵礦——其量甚多シ、〇・三「ミリ」以下、正方形結晶アリ、斑晶並ニ鑛粒トシテ多量ナルハ本岩ノ特色ニシテ本岩ノ黑色ハ之ニ起因ス、此外柱狀ノ黑色物アリ、角閃石ノ變成物歟。

石基——ヒヤロピリチック構造ナリ。
淨土岳ニハ磷石英ノ小集合體アリ、黑雲母小晶ト共生ス。

此兩種アンデン岩ハ共ニ黑色ヲ帶ビ角閃石アンデン岩(a)ハ兩輝石アンデン岩(b)ヨリモ細粒質ニシテ且ツ石基中ニ多量ノ玻璃アリ、長石斑晶ハ共ニラブラドライトニ屬シ、普通輝石及紫蘇輝石ハ(a)岩ニ於テハ角閃石出現ノタメ其量大ニ減ズ、角閃石ハ兩岩區別ノ要素ニシテ多良嶽火山ノ頂上部ヲ構成スル角閃石アンデン岩流ノ夫ト類似ス(a)(b)兩岩ハ各獨立丘ヲナシテ玄武岩或ハ塊泥岩上ニ坐スレドモ其岩質ニ至リテハ兩者ノ主成分及組織ニ差異アリテ兩者ノ本源ハ之ヲ同一ナリト謂フ能ハズ從ツテ其噴出時代ニモ差異アリ(a)岩ハ他ノアンデン岩類トノ關係明カナラザルモ(b)岩ニ就キテハ既ニ之ヲ述ベタリ。

第四章 火山岩噴出順序

地域内ノ火山岩噴出ノ順序ハ次ノ如シ、但シ塊狀火山構成岩ハ之ヲ除ク。

- (一) 石英アンデン岩
- (二) 玄武岩
- (三) 塊泥岩
- (四) 紫蘇輝石アンデン岩
- (五) 角閃石アンデン岩
- (六) 讚岐岩

右ノ内、(一)ハ岩脈ヲナシ小露出ヲナスニ過ギズ、且ツ玄武岩トノ直接々觸ヲ認ムルコト能ハザレドモ前者ガ後者ヨリモ古期ニ屬スル觀アリ。然レトモ鈴木政達氏ノ調査ニ依レバ我地域外北方、伊萬里ノ南腰嶽ニ於テ玄武岩ノ上ニ石英アンデン岩ノ噴出明カナル所アリト云フ。

多良嶽火山ニテハ基性鎔岩其基礎ヲ作り、次第ニ酸性ノ岩石ヲ以テ山體ヲ完成シ、角閃石アンデン岩、讚岐岩ヲ以テ其終局トナス。此ノ酸性増加性ヨリ觀レバ地域内ノ石英アンデン岩ノ噴出席次ハ最新期ニ編入シテ不可ナキ所ナレドモ野外觀察並ヒニ顯微鏡查察ニヨリテ之ヲ立證スル能ハズ。

然レバ本地域岩石配列ハ垂直的ニ基性ヨリ酸性ニ及ヒ其噴出順序ハ大和二上火山(1)、四國北岸ニ於ケル(6)ト反對ノ現象ヲ示セリ。

第三編 雜錄

第一節 浮石層

東海岸井崎ノ路上ニ浮石層ガ小區域ヲナシテ玄武岩上ニ堆積ス、厚サ五米、此浮石層ハ白色玻璃光澤アル大サ十糎以内ノ浮石片及ビ其破碎物ヨリ成リ膠著弱ク、粗鬆ニシテ指頭以テ能ク壓壞シ得ルナリ。

浮石ヲ水籤シ鏡檢スルニ主ニ褐色微粒ヲ含ム無色玻璃ヨリ成リ甚ダ少量ノ長石、輝石晶アリ、長石ハ a 軸ニ延長セル柱狀ニシテ長サ二「ミリ」、双晶少ク M 面ノ消光角ハ正二六度ナリ、オリゴクレースニ相當ス、輝石、紫蘇輝石ハ其

出顯稀ナリ、此浮石ハ兩輝石アンデン岩質ノモノナリ。惟フニ比較的新ラシキ時代ニ噴火ニヨリテ抛出セラレタル浮石ガ海面ヲ浮游シ、井崎海岸ニ漂著、玄武岩上ニ堆積セシモノナルベシ。

第二節 集塊岩

西北邊、俵坂ヨリ彼杵ニ至ル國道筋ニ露出スル集塊岩ハ狹小ナル區域ヲナシ彼杵川ノ沿岸ニ玄武岩上ニ堆積ス、其膠著脆クシテ容易ニ岩塊ヲ分離シ得ベシ、岩塊ニハ斑狀玄武岩、及ビ角閃石アンデン岩アリ、稜角アル大サ直徑十糎以下ノモノ多シ。玄武岩ハ二米ニ及ビ、斜長石及橄欖石斑晶ヲ有シ後者ハ分解シテ黃褐物質ニ變ジ石基ハ拍子木狀ノ○・一「ミリ」大ノ長石、輝石微晶、磁鐵鑛ヨリ成リ「インターサータータル」構造

ヲナシ又流理構造ヲ呈ス、本岩ハ地域内ニテハ他ニ分布ヲ見ス、白島ヲ構成スル粒狀玄武岩ニ類似スル所アリ。角閃石アンデン岩ハ淡紅色斑晶岩ニシテ其大サ前者ニ劣ル、角閃石ハ小形ナレドモ多色性著シク、淡黃ヨリ鮮カナル紅褐色ニ變化シ地域内ノ角閃石アンデン岩ニ之ヲ見ス。集塊岩ノ膠著物質ハ角閃石アンデン岩質ニシテ粉細物ヨリ砂粒大ニ及ビ、柱狀角閃石、輝石、長石及ビ其粉細物ヨリ成ル。

本岩ノ主成分タル角閃石アンデン岩ハ地域内ニ分布スルモノト異ナル種類ニ屬シ從ツテ其噴出地點ヲ指摘シ難ケレバ地域外北方ニ之ヲ求メ得ベク、其噴出時代タルヤ地域内火山岩中最モ新期ノモノト思ハル、是レ此種ノアンデン岩ハ寧ロ南日本内側系ニ屬スル酸性角閃石アンデン岩ニ類シ居ルヲ以テナリ。

第三節 溫泉

當火山地域ニハ溫泉ノ湧出スルモノ少ク唯僅カニ北邊嬉野ニ之ヲ見ルノミ。本城川上流海拔四百米ノ平谷ニ冷泉アリ、單純泉ニシテ浴舎一棟アリ、玄武集塊岩中ヨリ湧出スル所謂自然ノ澆水ナリ。

嬉野溫泉ハ嬉野川ノ左岸ニアリ第三紀砂岩層ノ裂罅中ヨリ湧出スル「アルカリ」泉ニシテ海拔七十米ノ所ニアリ。

其要素左ノ如シ。

泉 質 アルカリ性炭酸鹽泉

溫 度 攝氏 九十六度(氣壓七百六十六耗)

固形殘渣 一・五五瓦

重碳酸曹達 一・三〇瓦

食 鹽 〇・三八瓦

一晝夜湧出量 二五九二ヘクトリートル

比 重 一・〇〇五(攝氏十五度ニ於テ)

發 見 紀元二百七十年

第四節 地震

當火山區ハ古來地震ヲ感ズルコト少ク、古記録上其記事ヲ見ズ、近年ニ至リテモ中央氣象臺ノ報告ニヨルニ長崎縣下ニ於ケル地震記録ハ一ヶ月一乃至三回ノ局發微震ニ過ギズ、然ルニ大正四年ニ至リテ地震ヲ感ズルコト屢々アリ(7)、同年四月以降ハ頻繁ニシテ七月二十日、二十一日ニ至リテ絶頂ニ達セリ、即チ四月ニハ長崎縣下ニ於テ局部地震八回アリ、六月ニハ北高來郡ニ小區域地震二回、局部地震九回、七月ニハ十二回ノ局部地震、八月ニハ四回ノ地震アリ、是等ノ地震ハ必ズ一種ノ遠雷或ハ砲聲ノ如キ鳴響ヲ伴ヒ性質急ニシテ突トシテ來リ瞬間ニ止ム、是レ近距離地震ノ特性ナリ、此地震ノ最モ顯

著ニ感ゼシハ西彼杵郡喜々津、眞津山、小栗ノ各村ニシテ就中、喜々津、村井、樋ノ尾、平木場方面ノ人心ニ與ヘシ印象最モ深シ、七月二十日午前八時及ビ二十一日午後四時頃ノ地震ハ最モ強シト見做サレ居ルモ時計ノ振子ヲ止メ、又器中ノ液體ヲ溢出セシムル程度ニ達セザリシナリ、然レバ此レ弱震ノ強キ方、又ハ強震ノ弱キ方ニ屬スルモノニシテ唯地方人民ガ地震ノ經驗ニ乏シキヲ以テ之ヲ烈震或ハ激震ト稱シタルニ過ギズ、觀測ニヨレバ地震ノ性質上ヨリ判ズルニ震源地ハ喜喜津村井樋ノ尾嶽、若シクハ夫レニ接近セル極メテ狭小ナル區域ニシテ地下餘リ深カラザル所ニ在リ。

第五節 古記録

多良嶽火山及ビ其附近ニ關スル舊記録(8)ヲ見ルニ其説ク所一ナラズ何レモ傳說的ノモノナレドモ左ニ之ヲ録セン。
●人皇四十三代元明天皇ノ御宇、和銅年間大僧正行基、筑紫ヲ巡廻シ松原浦ノ海濱ヲ過グルトキ奇異ノ影現ヲ波間ニ視ル、行基合掌禮拜シ之ヲ指シ覽ルニ其影飛ビテ郡嶽ノ嶺ニ至ル、行基跡ヲ慕ヒ往キテ之ヲ見ルニ彌陀釋迦觀音ノ三尊、光明赫々トシテ袈々タル高巖ノ間ニ現ハル、行基驚嘆シ之レ天竺摩訶陀國ノ神靈ナリトシ即チ此山嶺ニ堂ヲ建營シ、此三尊ヲ安置シ太郎山大權現ト稱シ奉ル、是レ當山神宮寺ノ濫觴ナリ。星霜後ニ累リ、此神廟ヲ皆此山ノ奥太良嶽ノ嶺ニ移シ爾來太良嶽大權現神宮寺太良岳金泉寺ト稱ス、多羅山寶圓寺ハ大村家鎮護ノ宗廟ニシテ政島城鬼門池田山ノ北ニ鎮座シ天竺摩訶陀國ノ神靈ヲ祭ル、本地ハ彌陀釋迦觀音三神一體ノ垂迹ナリ。

●往昔何レノ御宇ニヤアリケン、今ノ彼杵村ノ虚空ニ當リテ怪シキ物出現セリ、
郷人奇異ノ思ヲナシ神樂ヲ奏スレバ漸々舞降り諸人歡喜シテ之ヲ見ルニ杵ニテ
ゾアルナル、因テ彼杵ヲ祝祀セシム、爾來彼杵ノ天降ル所ヲ傳ヘテ彼杵ノ莊ト
云フ、其頃行基菩薩當國ニ止錫アリ彼杵降リタル所ニ一字ヲ創建シ其杵ヲ以テ
自ラ彌陀ノ尊像ヲ作りテ安置シ大御堂ト稱ス。

●弘法大師支那ニ渡リ陀羅摩國威摩大王ヲ導キ歸リ、竹崎ヨリ上陸シテ太良嶽ニ
至ル、大王ノ名ヲ探リテ太良嶽ト稱ス、多良村ハ其駐在地ナリシニヨリ土地繁
昌セリ、太良ノ名稱ヲ探ルハ禮ヲ失フニ依リ故意ニ多良トナセリ、大王來ルト
キ籬ニ上乘シ其尾ヲ帆柱岳ノ頂上ニ樹テ其上ニ御幣ヲ結ヒシモノナリト云フ。
●經ノ岳ハ弘法大師ノ經ヲ捧ケシ所ナリト云ヒ又往昔此絕頂ニ壺ニ經文ヲ入レテ
納埋セシ所ナルカ故ニ經ノ岳ト號スト云フ、土人曰ク此經ノ岳ハ上古、或時ハ
高ク又俄ニ低クナリ高低更ニ定マラス種々ノ奇怪アル故ニ此絕頂ニ經文ヲ藏メ
シ所、其後怪異止ムト云フ。

以上ハ大村郷村記ヨリ抄録セシモノ及ヒ里人ヨリ聽聞セシ所ヲ錄シタルモノナル
カ此外ニ我地域内ニ存スル湖沼築堤ノ年代、島嶼ニ關スル地理的記事アリ。
●本火山活動或ハ變動ニ關シテハ更ニ傳ハルモノナク多良嶽火
山ハ實ニ有史以來全ク活動消滅ノ状態ニアリト謂フベシ。

第四編 結論

第一節 第三紀時代ニ於ケル地形變遷ノ歴史

第三紀時代ニ於ケル地域ノ地形ノ有様ヲ考察スルニ抑モ九州
北西部ナル有明海、大村灣、長崎附近ニ發達スル第三紀層ハ新
古ノ二層ヲ區別シ得ベク古層ハ主ニ砂岩、泥板岩ヨリ成リテ
其本源ヲ酸性ノ深造岩ニ仰ギ中新期成生ニ屬シ、新層ハ凝灰

質岩石ニシテ其源ヲ火山岩ニ仰ギ最新期ニ屬スルモノナリ。

大村半島ニ發達スル第三紀層ハ中新期ニ屬スル古層ニシテ其
新層ヲ缺クハ古層沈積後上昇シテ陸地トナリ新層沈澱スルコ
ト能ハザリシカ或ハ新層ガ局部的ノ成生物ナリシ爲メ此所ニ
之ヲ見ザルナリ、此古層ガ其成生後、地殼運動ノ影響ヲ被リ
シハ其層ノ著シク傾斜スルコトニヨリテ明カニシテ現今第三
紀層露出ノ最上部ハ海拔百米突(俵坂ニ例外アリ
テ二百米ニ達ス)以下ニ過ギザル
ハ其當時ノ地貌ガ甚ダシク急峻ナラズ低キ丘陵地ヲ作り居リ
シコトヲ想像セシム、未ダ有明海ナク、大村灣ナク東西相連
互ノ陸地ヲ形成セリ。

然ルニ最新期ニ至リ地殼運動ハ次第ニ原形ヲ破壊シ火山活動
旺盛トナリ各種ノ鎔岩ヲ噴出シ地貌全ク一變スルニ至レリ、
今其原因結果ヲ綜合スルニ

最初現今ノ多良嶽火山中央部ヲ通ジテ東西ニ走ル地溝線ア
リ、第三紀層ノ露出ガ地域ノ北部及ビ西南部ニ限ラレ而モ夫
レガ玄武岩ニ被ハル、ニ係ラズ中部及ビ東西部ニ於テ假令上
乗スル玄武岩ヲ見ルト雖モ其下部ノ第三紀層ヲ見ル能ハザル
ハ東西線ヲ通ジテ陷落帶ノ存在スルコトヲ示シ其線ニ沿フテ
鎔岩ノ噴出ヲ見ルニ至レルニ由ルナリ。

有明海、大村灣底部ノ地形ヲ水路部出版島原海灣及ビ九州北